

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1	
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)	
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 1	
【授業の概要】 介護の基本となる、「介護を必要とする方の自立を促すことができる介護」を提供するための基礎を学ぶ。「介護従事者の安全」を護り、「安全な介護」を提供できるからだの使い方を身につける。また、日常生活における人間の自然な動きを理解し、姿勢・安全な動作を身につけ、臨床経験をもとにした自立に向けて安全な介護を実践するための基礎を習得する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解		
【学習目標(到達目標)】 ①「自立に向けた介護」を提供できるため、「寝返る・起きる・座る・立つ・歩く」などの人間の自然な動作を説明できる。 ②介護従事者が安全な介護を提供するために必要なボディメカニクスを活用できる。 ③安全に生活できるために、介護を必要とする方の「よい姿勢と動作の関係」を説明できる。							
【履修上の注意】 実習室での授業は身だしなみを整える							
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	イントロダクション		ボディメカニクスを学ぶ意義、目的を理解できる 学習する上でのルール、注意事項を理解できる				
2	ボディメカニクス8原則		介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディメカニクスの重要性を理解できる 介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を学ぶ				
3	介護従事者のボディメカニクス		介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解できる ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を学ぶ				
4	介護従事者のボディメカニクス		介護従事者が安全に介護を提供するための、ボディメカニクスの8原則を理解できる ベッドメイキングの技法を通して、介護従事者が安全に介護ができるからだの使い方を学ぶ				
5	自立支援とボディメカニクス		介護従事者と介護を必要とする方、相互におけるボディメカニクスの重要性を理解できる 介護を提供する際の安全とは、自立支援とは、を学び、ボディメカニクスの重要性を学ぶ				
6	安全な姿勢とは		介護を必要とする方の「臥位・座位・立位」における安全な姿勢(支持基底面と重心の関係)を理解できる 「臥位・座位・立位」における、安全と支持基底面と重心の関係について学ぶ				
7	自立に向けた介護の技法「寝返る」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解できる 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを学ぶ				
8	自立に向けた介護の技法「寝返る」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「寝返る」を理解できる 「寝返り」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な寝返りの動きを学ぶ				
9	自立に向けた介護の技法「起きる」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解できる 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を学ぶ				
10	自立に向けた介護の技法「起きる」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「起きる」を理解できる 「起き上がり」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な起き上がりの動作を学ぶ				
11	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 (介護ロボットの体験)		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解できる 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を学ぶ				
12	自立に向けた介護の技法「立つ・座る」 (介護ロボットの体験)		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「立つ・座る」を理解できる 「立つ・座る」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な立つ動作・座る動作を学ぶ				
13	自立に向けた介護の技法「歩く」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解できる 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を学ぶ				
14	自立に向けた介護の技法「歩く」		自立に向けた介護を提供するための、人間の自然な動き「歩く」を理解できる 「歩く」を支援する介護の技法を通して、人間の自然な歩行を学ぶ				
15	まとめ						
期末試験			評価方法	受講態度	20%		
				筆記試験	80%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ、7 生活支援技術Ⅱ							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】授業前に予習、授業後の復習(実技練習)							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】			教員室にて

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
窪木 守	特別養護老人ホーム 14年勤務	窪木	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	月 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 介護福祉研究において、最も必要な問題意識を高める方法を習得するために、問題を整理しまとめる力を身につけ、あわせて介護に関する研究を社会的、心理的、身体的な側面から整理できる方法を身につける。さらに、問題を全体的に考察するため臨床経験上の問題解決方法を習得する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 ①介護福祉士に必要な研究方法を理解できる。 ②実習等の事例から介護を必要とする方の自律に向けた援助方法を評価・考察より理解できる。 ③知識・理論・実践を融合させていくことができる。					前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 状況判断力 心身機能と構造の理解 コミュニケーション力	
【履修上の注意】 主体的に授業に参加しよう						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	介護福祉研究方法の理解		介護福祉研究の意義 研究すること 問題意識の発掘 レポートの書き方 感想文と研究論文の違い			
2	研究との出会い①		日常生活からの気づきを形にする レポートの書き方 感想文と研究論文の違い			
3	研究との出会い②		自分と語り合う 書くということ 共同研究 文献研究			
4	研究との出会い③		プレゼンテーションの準備 研究の出発点 気づき 関心 疑問をもつ			
5	研究計画書をつくってみよう①		研究テーマを考える アイデアを形にする 仮説 アウトラインを描く マインドマップ			
6	研究計画書をつくってみよう②		研究計画書作成 研究方法			
7	研究計画書をつくってみよう③		研究テーマ発表 振り返り			
8	事例研究①		自分でテーマを決めて書いてみよう 研究計画書(研究過程)			
9	事例研究②		論文筆記のルール 用語の定義 注 注記 引用文献 参考文献			
10	事例検討①		事例① 個人ワーク グループワーク 振り返り			
11	事例検討②		事例② 意見交換			
12	事例研究③		事例③ 個人ワーク グループワーク 振り返り			
13	事例研究④		事例研究 ロールプレイ 個人ワーク グループワーク 振り返り			
14	まとめ①		研究発表			
15	まとめ②		研究発表			
期末試験			評価方法	レポート	70%	
				受講態度	30%	
【教科書】 思考を考えるレポート・論文作成法						
【参考書】 なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 実習の準備と振り返り						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
知野 吉和	特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 介護を必要とする方へのアプローチの方法や技術を理解し実践できるようにする。対人援助職として必要不可欠な技術を身につける。交流分析の研究を用いたグループワーク等を展開する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 生活支援技術	
【学習目標(到達目標)】 ・関係づくりについて理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの基本を習得する。 ・社会とコミュニケーションの意味について考察できる。						
【履修上の注意】 主体的に授業に参加しましょう						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	コミュニケーションとは		コミュニケーションの定義と働きについて理解する			
2	コミュニケーション技術①		価値観の比較と受容の意味について			
3	コミュニケーション技術②		事例検討から受容の実践について			
4	コミュニケーション技術③		事例検討から受容の実践について			
5	コミュニケーション技術④		事例検討から共感の実践について			
6	コミュニケーション技術⑤		事例検討から共感の実践について			
7	コミュニケーション技術⑥		客観的な自分について考察する			
8	コミュニケーション技術⑦		客観的な自分について考察する			
9	コミュニケーション技術の実践①		ディベート			
10	コミュニケーション技術の実践②		ビブリオバトル			
11	コミュニケーション技術の実践③		質問力を磨く ロールプレイ			
12	コミュニケーション技術の実践④		他職種との連携・協働・統合			
13	コミュニケーション技術の実践⑤		書く技術, 話す技術のまとめ 記録と報告			
14	コミュニケーション技術の実践⑥		書く技術, 話す技術のまとめ 記録と報告			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	受講態度	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】最新 介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2	
知野 吉和		特別養護老人ホーム 8年勤務	知野	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
				【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 社会福祉専門職者として、介護を必要とする方にかかわる態度・姿勢のあり方について理解する。そのために、バイステック7原則を中心に授業をすすめる。交流分析士としてのアプローチも紹介する。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力		
【学習目標(到達目標)】 バイステック7原則の理解・修得を目標とし、「自律性」と「自己覚知」をキーワードに「人間関係とコミュニケーション」について学ぶ。							
【履修上の注意】 主体的に授業に参加しましょう							
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)					
1	オリエンテーション	介護福祉士とコミュニケーションについて シラバスについて理解する					
2	専門対人援助関係の形成①	専門性の構造とその要素について 「福祉倫理」「専門知識」「専門技術」について理解する					
3	専門対人援助関係の形成②	専門職としての主体性について 自己覚知の一環として、福祉職としての適性を理解する					
4	社会福祉援助活動の基本的枠組み	社会福祉援助技術について 社会福祉援助技術の体系と種類について理解する					
5	直接援助技術①	ケースワークについて ケースワークの沿革と基礎理論について理解する					
6	直接援助技術②	ケースワークについて バイステックの7原則について理解する					
7	直接援助技術③	ケースワークについて バイステックの7原則について理解する					
8	直接援助技術④	ケースワークについて ケースワークの展開過程について理解する					
9	直接援助技術⑤	ケースワークについて ケースワークの展開過程について理解する					
10	直接援助技術⑥	グループワークについて グループワークの沿革と基礎理論について理解する					
11	直接援助技術⑦	グループワークについて グループワークの基本原則と構造について理解する					
12	直接援助技術⑧	グループワークについて グループワークの展開過程について理解する					
13	直接援助技術⑨	グループワークについて グループワークの展開過程について理解する					
14	直接援助技術⑩	記録について 記録・スーパービジョンについて理解する					
15	まとめ						
期末試験		評価方法	受講態度	60%			
			筆記試験	40%			
【教科書】資料配布あり							
【参考書】なし							
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】担当教員より指示あり							
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて		

授業名: 安全管理と感染防止

※実務経験のある教員の授業科目

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	1
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 3	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 看護の臨床経験を生かして、介護を必要とする方の安全を何より優先すべきことを認識し、介護福祉に従事するすべての職員が安全を最優先に考えてその実践を目指す態度や考え方を学習する。					【受講して得られる力】	
【学習目標(到達目標)】 安全な介護を提供することができる介護福祉士を目標に、事例学習をとおして安全管理およびリスクマネジメントの考え方を習得する。					前に踏み出す力 チームで働く力 考え抜く力 心身機能と構造の理解	
【履修上の注意】 主体的に授業に参加しよう						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	安全管理を学ぶ意義		介護における事故をとおして安全を考える			
2	介護の質(1)		介護の質とは、介護の質の評価、国際標準化機構(ISO)について理解できる			
3	介護の質(2)		個人情報保護法と介護における個人情報の取り扱いについて理解できる			
4	介護の質(3)		インフォームドコンセントと自己決定、高齢者虐待と身体拘束ゼロについて理解できる			
5	リスクマネジメント(1)		リスクマネジメントとは、リスクマネジメントのプロセスを学ぶ			
6	リスクマネジメント(2)		インシデントレポートの目的と意義、分析、活用について理解できる			
7	リスクマネジメント(3)		介護福祉士の法的責任について(行政処分、民事責任、刑事責任)を学ぶ			
8	介護の環境と感染症		介護を必要とする人と感染症について学ぶ			
9	施設内感染対策		施設内感染とは、施設内感染予防対策、スタンダード・プリコーションについて理解できる			
10	施設内感染対策		インフルエンザ、MRSA、肺炎等について理解できる			
11	施設内感染対策		食中毒とは、食中毒の原因、ノロウイルス食中毒について感染拡大しないさせない対処方法について理解できる			
12	施設内感染対策		ウェルシュ菌、黄色ブドウ球菌、病原性大腸菌等について理解できる			
13	居宅介護における感染対策		家族間感染の予防、家庭における衛生管理について考える			
14	抵抗力を高める感染対策		病原体から身体を守る対策が理解できる			
15	まとめ					
期末試験			評価方法	受講態度	60%	
				筆記試験	40%	
【教科書】担当教員が指示します						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】 予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	介護福祉学科	【学年】	2
富田 きよ子	病院 43年勤務	富田	【開講時期】	前期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	火 1	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 介護福祉士が医療行為に関わる事が多くなっている中、正常と異常を適切に判断し、医療関係職種との連携ができることが求められている。その知識を持って医療職との協働することを学ぶ。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 医療的ケアの理解	
【学習目標(到達目標)】 1. 内部障害者の特性に応じた介護の知識や具体的な介護の援助技術の習得、及び医療との具体的な連携方法を理解する。 2. 内部障害をもった方の生活を理解し、介護福祉士の視点を持って介護過程を展開できる。						
【履修上の注意】 主体的に授業に参加しましょう						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)				
1	オリエンテーション	生活における介護と医療行為について 医療行為範囲外11項目について				
2	日常生活における健康の支援	健康状態の観察(バイタルサインチェックの方法) 体温、脈拍、呼吸、血圧、酸素飽和度の測定方法				
3	緊急時の対応(講義)	緊急時の対応についての理解 介護において予想される緊急時の対応について学ぶ				
4	緊急時の対応(演習)	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する				
5	緊急時の対応(演習)	緊急時の対応についての理解 演習にて、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDの使用方法について理解する				
6	日常生活における外傷時の支援	創処置の方法、消毒液の効用 切り傷、擦り創、熱傷の処置の方法				
7	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する				
8	生活における薬の自己管理	薬の自己管理の方法を学ぶ 内服薬・外用薬等処方された薬の自己管理の方法を理解する				
9	経管栄養のある方の生活支援	経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点の理解と介護 経管栄養のある方の経管栄養の方法と留意点について				
10	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する				
11	日常生活における爪切りと耳垢の除去の支援	爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解と介護 爪切り・耳垢の除去の方法と留意点を理解する(事例を通して演習)				
12	日常生活における排便コントロールの介護	日常生活における排泄コントロールのとれない方の理解と介護 便秘に対する、浣腸の手順と留意点を理解する				
13	人工肛門のある方の生活支援	人工肛門のある方のストマ装着の理解と介護 パウチの排泄物除去の方法について				
14	排尿障害のある方の自立に向けた排泄の介護	排尿障害のある方の自己導尿の方法の理解 自己導尿の手順と留意点を理解する				
15	まとめ					
期末試験		評価方法	受講態度	60%		
			筆記試験	40%		
【教科書】最新 介護福祉士養成講座15 医療的ケア						
【参考書】なし						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 予習・復習をしましょう						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	